



石神井南中学校 学校だより

平成29年度 第5号
発行日 9月 1日(金)
練馬区立石神井南中学校
校長 児島 泰彦

9月は長月といい、夜が長くなるという意味や稲を刈る月という意味があるそうです。今年の夏は雨が多く、日本各地が風雨による災害に見舞われました。多くの田畑が水につかり、稲の稔りが心配されます。昔から稲の稔りが我々の生活を支え、豊かさをもたらしてきました。今年の秋、たくさんの稲穂が頭を垂れている風景を想像しながら豊かな秋を迎えたいものです。

< 2学期始業式 >

長かった夏休みが終わり、今日から2学期がスタートします。今年の夏は梅雨時には雨が少なかったのに、梅雨が明けると同時に暑さが弱まってしまいました。7月24日から1年生が行った下田での臨海学校も例年に比べて気温が低く、海に入る瞬間に勇気が必要なぐらいでした。1日目の午後は波もあり、何名かの生徒が波に押し倒される場面がありました。一度そういう経験をしてしまうと恐怖心が先に来てしまって、泳ぐのが怖くなってしまふことがあります。そんな生徒たちの周りを先生方ががっちりガードを固めて泳ぐことで、最後の遠泳も大と中に分かれて全員が泳ぎ切ることが出来ました。泳ぎ切った生徒たちも立派ですが、それを支えてくれた先生方にも感謝です。みんなと一緒に3泊4日を過ごしたことで、1年生は一回り大きく成長しましたね。

8月に入っても毎日雨が続く異常な天候で、こんなに日差しの少ない夏休みは最近なかったですね。3年生にとっては学習するのに過ごしやすい気候だったのでしょうか。この夏の頑張りがこれからの受験にプラスにつながっていきます。2学期からの毎日を大切に過ごしてください。

2年生は部活動の中心として充実した日々を過ごすことができたでしょうか。早いところでは新人大会がもうすぐ始まると思います。練習の成果を発揮してください。

また、夏休み中には、吹奏楽部が都コンクールで金賞を受賞しました。日々の努力の積み重ねがあつての受賞は感動をもたらします。素晴らしい演奏でした。

そして、卓球部は春の大会に続いて東京都の代表として関東大会に出場しました。予選リーグの1試合目は茨城県のチームと対戦して大接戦の末勝利しました。一球一球あきらめない気持ちが伝わってくる素晴らしい試合でした。2試合目は山梨県のチームと対戦して残念ながら負けてしまいましたが、東京に何百とある中学校の中から代表に選ばれ関東大会に出場したことは本当にすごいことだと思います。お疲れ様でした。

今年は下石神井小学校の校舎改築の関係で、本校の校庭で早朝のラジオ体操が行われたのですが、この会に中学生が大勢参加してくれました。早起きをして参加するとその日一日が長く使えて有意義になりますね。

今年の夏も様々な場面で石南中生の素晴らしさを見ることが出来ました。今日から始まる2学期もその姿勢を遺憾なく発揮してください。

7月24日から3泊4日の臨海学校では様々な経験がありました。初日の水泳練習では海水は冷たく、波も高く大変な状況でした。初めての海で高波に飲まれてしまい、恐怖心を抱く生徒もいましたが、友達同士で励まし合って水泳練習をする姿は感動的でした。3日目の遠泳は大遠泳と中遠泳に分かれましたが、お互いに泳いでいるときに大きな声で応援していて、泳いでいる方の大きな励みになっていました。また、遠泳のゴールで、達成感のあまり泣いてしまう生徒もいて、見ている先生も感動しました。生徒の作文でたくさん書かれていたことを2つ紹介します。「最後まで諦めない心が大切」「つらいときの友達の大切さ」この臨海学校で学んだことは多くあったと思います。この臨海学校のことを忘れずにこれからの生活に生かしてください。



「コンクールで金賞が取りたい。」ある日部会で目標を定め、今年のコンクールに向けて始動しました。夏休み前から練習に励み、一人一人が良い音を作ろうと努力を重ねました。楽器を演奏するには体力も必要で、練習の途中で演奏ができなくなることもしばしばありました。その中でお互いを励まし合い、本番に向け一生懸命練習に取り組む姿を多く見ることができました。夏休みに入ると練習は本格的になり、コンクール本番までは朝から夕方まで休むことなく音を出し続けました。何度も合奏し、音を合わせました。本番まで数日しかないある日、コーチから「目指すものは何か」と聞かれ、はっきりと「ゴールド」と答えている皆さんの姿は、とても凛々しく見えました。迎えた当日、緊張感に包まれる中、大隈先生の一振りで演奏が始まりました。練習の成果が表れた、今までで一番良い演奏に感動し、目頭を熱くする方も多かったことでしょう。祈りながら聞いていた結果発表。「ゴールド金賞」その瞬間の皆さんの歓声に心から嬉しく思いました。ご指導いただいたコーチのお二人、指揮を引き受けていただいた大隈先生には大変感謝しております。また保護者の皆様には、練習から当日までご理解ご協力をいただき、ありがとうございました。たとえ結果に繋がらなくとも努力はすることに意味があります。しかし、その努力が実を結ぶことでさらなる喜びを感じることができました。本当におめでとう。



7月23日、都大会二日目。前日の女子個人戦で代表決定戦まで進むも敗れた女子部員達は目標である団体戦での関東大会出場に向けて燃えていた。準々決勝で多摩地区1位の霞台中に敗れるが、代表決定リーグでは全勝し、東京都5位で念願の関東大会初出場を決めた。

関東大会の会場は埼玉県越谷市。なんと前日の会場練習から全て自宅から通い。8月7日、午前中学校で練習後、石神井公園駅から移動し、電車、バスを乗り継ぎ、2時間弱かけて会場入りした。14時から練習会場はメインアリーナ・サブアリーナと開放されていたが、東京都の学校は男女12校中女子3校のみ来場。割り当てられた台は少なかったが、

明るい照明、弾みの良い卓球台の体育館で十分に感触を確かめることができた。

大会当日、練習後入場行進から開会式を終え、試合が始まる。第1試合は茨城県の中郷中。トップで茨城県個人3位の実績を持つ相手校のエースに主将が敗れるも、2番、3番ダブルスは完勝。ここで勝利かと思われたが4番では相手の有力新人に敗れ、勝敗の行方はラストへ。相手の2年生に対してこちらはエース。審判のジャッジをめぐり中断する場面もあったが、緊張の中、勝利することができた。3月の関東選抜大会では団体戦全敗であったため、大きな大きな一勝となった。

8月9日、二日目の第一試合は予選リーグ通過をかけたの大一番。対戦相手は山梨県1位の田富中。日本代表で現アジアチャンピオンの平野美宇選手の妹2人を擁するチーム。1番は山梨県3位の選手にまたも主将が当たり、セットオールの激戦で敗れる。3番のダブルスはとるも、全国上位の実績を持つ平野姉妹には惜しくも勝てず、チームは1-3での悔しい敗戦。トップの試合をものにすれば勝利したと思われるが、悔いは無い。選手は「もっとできた」という気持ちで一杯だったと思うが、この素晴らしい舞台で生徒達は良くも悪くもいつも通りのプレーをした。本番でいつも通りのプレーをすることがどれだけ難しいことか。これまでの2年半がどれだけ素晴らしい取り組みだったかを物語っていると思う。また、ここまでの全ての大会に参加できたのも選手本人達の頑張りだけでなく保護者や周囲の方々の支えがあつてのものである。本当にありがとうございました。

なお、関東大会の男子団体戦優勝校は尾久八幡中学校。男子の都大会の初戦の相手であった。互角以上の戦いを繰り広げていたことを追記する。

